

第53回 全国児童才能開発コンテスト

第53回 作文部門入賞者一覧

◆ 文部科学大臣賞〈低学年の部〉

愛知県蒲郡市 形原北小学校 3年 西山 里菜

◆ 文部科学大臣賞〈高学年の部〉

宮城県本吉郡南三陸町 入谷小学校 6年 三浦 なぎさ

◆ 全国都道府県教育長協議会会長賞

富山県下新川郡入善町 飯野小学校	1年	笹島 浩裕
山口県山口市 山口大学教育学部 附属山口小学校	2年	坂本 純優奈
東京都新宿区 学習院初等科	3年	青木 美咲
青森県上北郡七戸町 城南小学校	4年	工藤 海音
宮城県仙台市 東仙台小学校	5年	佐藤 優宙
宮城県仙台市 宮城教育大学 附属小学校	6年	勝山 史

◆ 全国連合小学校長協会会長賞

愛知県岡崎市 竜谷小学校	1年	三宅 結翔
愛知県岡崎市 六ツ美中部小学校	2年	鈴木 望心
長崎県長崎市 長崎大学教育学部 附属小学校	3年	東 美桜
北海道札幌市 宮の森小学校	4年	松田 莉奈
愛知県岡崎市 岩津小学校	5年	今村 颯
福島県いわき市 好間第二小学校	6年	愛川 美空

◆ 日本PTA全国協議会会長賞

愛知県蒲郡市 塩津小学校	1年	春日井 莉子
愛知県蒲郡市 蒲郡北部小学校	2年	青山 颯

◆ 学 研 賞

神奈川県横須賀市 神奈川横須賀市 群馬県安中市 秋岡小学校	3年	田戸 小学校	松村 彩奈
愛知県岡崎市 連尺小学校	4年	連尺 小学校	眞砂 蒼
愛知県刈谷市 小垣江小学校	5年	小垣江 小学校	磯谷 洋斗
	6年		清水 悠生

◆ 菅 公 賞

愛知県岡崎市 富美丘小学校	1年	池田 尚優
愛知県岡崎市 博労小学校	2年	田原 一斗翔
愛知県岡崎市 岡崎小学校	3年	道田 晴仁
愛知県岡崎市 富美丘小学校	4年	石川 瑞桜
愛知県岡崎市 井田小学校	5年	柳瀬 栞里
愛知県蒲郡市 塩津小学校	6年	太田 絢加

◆ 才能開発教育研究財団理事長賞

愛知県岡崎市 矢作東小学校	1年	水野 具生
愛知県蒲郡市 蒲郡南部小学校	2年	岡田 ひかり
富山県南砺市 福光中部小学校	3年	三好 日向葵
新潟県長岡市 青葉台小学校	4年	宮下 月希
愛知県岡崎市 六ツ美北部小学校	5年	武内 祐樹
東京都小平市 東京創価小学校	6年	澁谷 美佳

菅 公 賞 いっしょだよ

愛知県岡崎市 矢作東小学校 1年

水野 具生

指導者 梅村 和美

「ええん」あさからおとうとがいない。ぼくは、おとうとのなきごえでめがめがした。めをこすりながら

「どうしたの？なんでゆいくん不在なの？」とおかあさんにきいた。「ようちえんにいきたくないといっているの。」おかあさんは、すぐこまったかおでそういいました。

おとうとは、四がつからようちえんにはいりなかなかようちえんになじめないらしく、まいにちあさおきるとなっている。どうしたらようちえんは、たのしいところだよとおしえてあげられるかぼくは、かんがえた。

つぎのひ、ぼくは、おとうとよりはやくおきて、おとうとがいつもあそんでいるブロックでようちえんをつくった。おとうとは、おきてすぐ、ぼくのつくったブロックをみつけた。「よしっ」きょうはなかないぞ、ぼくはおとうとに「ゆいくんがいつてるようちえんだよ。おともだちがたたくさんいてたのしいところだよ。」とおとうとに、ブロックをみせた。おとうとは

「ちがう、ようちえんなんかじゃあない。これはゆいくんのおうち」となきだしてしまった。

しっばいだ。それからおとうとは、ずっとなきやむことはなかった。

おかあさんにおこられた。「もうよいなこをして。」と。

ぼくはおとうとがまいにち不在なのを、なんとかしようとおもったのに、なんでおこられるんだよとおもった。こうなったらせつたいに、ようちえんにいけるほうをかんがえてやるぞとおもった。ぼくは、ふとひらめいた。おとうとはアンパンマンがだいすき。アンパンマンをつかっただけでなかないほうはないか、そういうええおとうとはよくぼくにえをかいてといてくれる。えをかいてあげるとすぐよるこぶ。ぼくはおもった「これだ」と。

つぎのあさおとうとがおきてきた。ぼくはおとうとに「ゆいくん、おまじないのえをかいてあげるからてをかして。」

「おまじない。」とおとうとがきいてきた。「まあいいからてをだして。」とぼくがいうとおとうとは、おそるおそるてをだした。そのてにぼくは、おとうとがだいすきなアンパンマンをかいた。みるみるとおとうとのかおがかわった。

「わあ、アンパンマンだ。」とばんざいしながらよろこんでいる。「よし、だいいちだんかいクリアだ。」つぎは、ぼくのためにもアンパンマンをかいた。

「ゆいくんのためにはいちゃんアンパンマン、にいちゃんのためにはゆいくんアンパンマン。こうやって、てとてをあわせるとふたりのアンパンマンはげんきひやくばい、パワーぜんかいておがでるんだー。」

「ゆいくんのアンパンマンがいないとにいやちゃんはかなしくてパワーがでないんだそれでもないの？」とおとうとにきくと「ダメみんな、ないたらダメ」といった。

「じゃあこれからはなかにようちえんにいこうね」とぼくがおとうとにいうと、おでこにわをよせながら「わかったなかない」といいながらぼくのてに、じぶんのをあわせ「アンパンマンいっしょだよ。げんきひやくばい、パワーぜんかいてみんながおだよ」とわらっていた。

それからまいにちおとうとは、あさおきてきたらアンパンマンかいてとぼくにいつてくる。ぼくもおきたばかりでえをかくのはたいへんだけれど、おおきななきごえをきくよりはいいかとおもいながら、えをかいている。

おとうとよ、はやくえをかかなくてもなかにようちえんにいけるようになってくれとおもうぼくがいます。

入賞
おめでとう

おねえちゃんなんてもついやだ

愛知県蒲郡市 蒲郡南部小学校 2年

岡田 ひかり

指導者 杉浦 容子

「こら！あなたたち！なんでいつも出しっぱなしなのー早くかたづけなさい！」

「えーのぞみが出したおもちゃだよ！」

「あんたもいっしょにあそんでたでしょ！」

今日も可愛いママにおこられました。のぞみというのはわたしの二つ下の妹です。よくこなふうにしかられて、ちらかしたおもちゃはわたしがかたづけます。妹はしらんぷりで、いつものまにかどこかへ行ってしまします。

「あーあ、わたしも妹に生まれたかったな。」

心の中でそんなふうによく思います。なんでわたしばかり。ひよつとして、ママはわたしのことがきらいなのかな。そう思っと思いきってママに聞いたことがあります。

「ママはひかりのことが好きじゃありませんよ。」

「そんなことないよ。すきだよ。」

そう言ってくれたけど、ほんとかなあ、ぜんぜん気もちがこもっていないし、たぶんウソじゃないかなあと、ずっと思っていました。

ある日、そのことをパパに話しました。

「たしかにママはこわいよなあ。でもうんどう会やじきゅうそうプレーデーで、だれよりも大

きなこえで、ひかりー、ひかりーってママはおうえんしてたんだぞ。きらいだったらそんなにさげんでおうえんしないよ」

パパの話しをきいて少しほっとできました。

「うんどう会だけでなく、ほかにもいろんなことでがんばるすがたを見せてくれると、パパやママもうれしいしなくてきちゃう。それは二人のことが大すきだからだよ。」

ということも言ってくれました。それを聞いてわたしはなんだか心がぼかぼかしてきて、はずかしいけどうれしかったです。

ただ妹ののぞみはあいかわずで、かってにわたしのおやつをたべたり、たいせつにしまつてあるお気に入りのシールをつかってしまつたりとやりたいほうだい。わたしはそれをみつけるととてもはらが立って、ついつよくたいたり、けりとぼしたりしてしまいます。妹のせいかわわたしとぜんぜんちがつて、はじめての人にあまりさつができるし、しらない子ともすぐにお友だちになれちゃいます。

わたしはとてもはずかしがりやだから、はじめであう人やおなじ年の子にじぶんからはとても

話しかけることができませぬ。すぐに友だちをつくれる妹がときどきうらやましくなります。だからわたしは妹にいじわるになってしまふのだと思います。こんなこともありました。あるあさ、目をさますと、妹がかってにわたしのお気に入りのグリーンのワンピースをきていました。わたしはもうゆるせなくてむりやりふくをぬがせようと思いました。

でも妹も一どいいでしたら、なかなか言うことを聞きませぬ。けつきよくママに言われてわたしがあきらめました。でもそこでもわたしは妹をつよくたいてしまいました。ときどきわたしのそういういじわるなところがじぶんでもいやになります。ただこういうことがあつてもしばらくすると妹は、

「ひーちゃん、ひーちゃん」

と話しかけてきます。ひーちゃんってよばれるのはお友だちみたいだからほんとうはおねえちゃんってよんでほしいんだけど、でもまあそういうところはやはりかわいくてけつきよくいっしょにあそんでしまいます。ときどきわがままなところがいやになるけど、やっぱりわたしのたいせつなかわいいい妹ののぞみだけなので、おねえちゃんとして妹のめんどうをみれるようになりたいです。

来年は妹もがまんしように入学します。

うんどう会ではつうがくだんりレーにいっしょにえらばれてゆうしょうできるようにがんばりたいです。パパにそのことを話したら、すこく

こうふんして、

「いいじゃん、いいじゃん。二人のバトンをうけわたすところがみたいなあ。おうえんするからがんばれよ！」

と言ってくれました。そういえばつうがくだんりレーは、きよねんも一年生から三年生へバトンをわたしているようでした。もし二人ともせ

んしゅにえらばれたら、

「ひーちゃん、ハイ！」

と言つてバトンをわたしてくれるのかな。なんか考えただけでわくわくしてきました。のぞみといっしょにはしれたらほんとうにうれいんです。でもそのときは、ひーちゃん、じゃなくしておねえちゃんってよんでほしいです。

入賞
おめでとう

命のバトンタッチ

富山県南砺市 福光中部小学校 3年

三好 向日葵

指導者 正平 浩美

「ゆき姉ちゃん、元気ですか。天国は楽しいですか。あのね、煌ちゃんが生まれましたよ。元気な男の子でお母さんのおっぱいをのんで大きくなっているよ。」

ゆき姉ちゃんは、お母さんのお姉ちゃんです。わたしのおばさんになるのですが、やさしくてよく遊んでくれたので、「ゆき姉ちゃん」とよんでいました。そのゆき姉ちゃんは、去年の十月八日にびょう気でなくなつてしまいました。わたしのたん生日だったのに。くやしくてくやしくて、なみだが止まりませんでした。

それからしばらくたって、お母さんが、「お母さんのおなかに、赤ちゃんがやってきたよ。」

お父さんは、わたしとお兄ちゃんにとてもやさしいかおをして

「ゆき姉ちゃんの生れかわりや。」

と言つたので、わたしは、「え。」と思つたけど、すぐに、「そうや。お姉ちゃんの生まれかわりや。」と思ひました。

お正月がやってきて、三学期が始まつた日、お母さんは、入いんしてしまいました。出血して赤ちゃんがあぶなくなつたからです。わたしは、ゆき姉ちゃんの写真に

「お母さんと赤ちゃんを守ってください。おねがいします。」

二月になって、おかあさんはいいんしてきました。でも安せいにねていなくてはいけませ

んでした。お父さんは、仕事から帰ると、ごはんを作つたりせんたくをして大いそがしでした。お兄ちゃんとわたしは、お手つだいをたくさんしました。

お母さんは

「ありがとう。りゅうちゃん日向ちゃん助かるわ。」

と、よろこんでくれて、少しずつ元気になりました。

お母さんのおなかがだんだんと大きくなつていて赤ちゃんの心ぞうの音が、「ドク、ドク、ドク。」と、聞こえるようになりました。ときどき、おなかが動いてこぶみたいにニョキツと出るので、びっくりしました。

「赤ちゃんが動いて、手や足を動かしているからやよ。元気な赤ちゃんやねえ。」

と、お母さんは、うれしそうに言ひました。わたしは、早く赤ちゃんが生まれるといいなと思ひました。

六月になると、お母さんのおなかはとても大きくなつて、お母さんはつらそうでした。わたしは、

「赤ちゃんが元気に生まれますように。」

と、毎日、ゆき姉ちゃんにおねがひしました。

六月二十三日、午後一時三十分。

学校に行つている日で、正平先生が「三好さん、赤ちゃんが生まれましたよ。おばあちゃんから電話がかかってきましたよ。男の子ですつて、おめでとうございます。」と教えてくれました。

わたしは、急いで六年生の教室に行つて、「兄ちゃん赤ちゃん生まれたつて。こうちゃん。」と言うと、兄ちゃんは、「よっしゃあ、生まれた。さいこう。」と、とび上がつてよろこびました。

夕方、はるみばあちゃんと兄ちゃんとわたしの三人で赤ちゃんを見にびょういんへ行きました。赤ちゃんは、すやすやと気もちよさそうにねむっていました。ちっちゃくてしわしわな顔で、手も足もかわいかったです。

一週間して、お母さんと赤ちゃんが帰つてきました。名前は、「煌己（こうき）」です。家族みんな、名まえに「き」がつきます。みんなつながっているとかんじました。

煌ちゃんをだっこさせてもらいました。首がグラグラでふにゃふにゃしててこわかったけどかわいかったし、思ったよりも重くなかったです。「日向ちゃんもりゆうちゃんもこんなに小さくてかわいかったがやよ。大きくなつたね。」と、お母さんは、うれしそうに言いました。

お母さんのおなかに十か月もいて、元気に生まれてくれてありがとう煌ちゃん。
煌ちゃんは、お母さんのおっぱいしかのんでないのに、ずっしり重くなつたので、赤ちゃんの、せい長は早いなあと思います。家族が五人になつて、とてもにぎやかになりました。

ゆき姉ちゃんがなくなつてくやしかったです。でも、煌ちゃんが生まれて、みんな元気になれたのでよかつたなあと思いました。

ことに気づいた私は、二羽がいなくて、あわてて家中、お母さんと探しました。けれど、見つかる事はなく、外へ出てしまったことを確信し、シヨックで大泣きしてしまいました。どうしても、仕方がないで割りされる問題ではなく、出来ることは全てやろうと、お母さんと、町内の二百件近いお宅にインコ探しています。チラシを作り、一件一件回つて配りました。家の外にもポスターを貼り、警察にも届け出し、動物愛護センターへも連絡、パソコンのインコ掲示板にも情報をのせて、出来ることは、やりました。チラシを見て、カラスが、めずらしい色の鳥をくわえているのを見たとか、森の方へ飛んでつたのを見たとか、もう戻つて来ないような、悲しい電話も来たりしました。

キイたちを探して一ヶ月が経ちました。もう多分無理だから、明後日でもう一ヶ月、たのんで貼らせてもらつていた地域の中心にある食堂に、もうポスターを外してもらつて良いですと連絡をしようとしていた時、一本の電話が、久しぶりに鳴りました。その電話は、まさに今外してもらおうと思つていたお店に貼らせてもらったポスターを見ての電話でした。電話をくれたその人は、

「今、たまたまめつたに出来ない店のとなりにある市役所支所に用があつて来て、たまたまとなりの店のポスターを見たら、インコを探してるとのこと。実は、一ヶ月ほど前に、私の家でもインコを飼っているのですが、天気の良い日は、まどを開けていて、インコの声が外にも聞こえ

ゆき姉ちゃんと遊んだりできなくなつてさみしいけど煌ちゃんに生まれかわつて、命のバトンタッチをしたんだなと思います。ゆき姉ちゃん大きな大きなプレゼントありがとう。大きくなる煌ちゃんを見ていてね。みんなを守つてください。



菅公賞

信じる気持ちがあればきこつと

新潟県長岡市 青葉台小学校 4年

宮下 月希

指導者 遠藤 信春



知っていますか？インコって、一羽一羽においがちがうこと。知っていますか？一羽一羽、羽の肌ざわりがちがうこと。私は、セキセイインコが、大好きです。インコに、パワーをもらい毎日生活をしています。生まれ変わったらセキセイインコになりたい！と思つているほど大好きです。今、私の家には、たくさんインコがいます。どの子も大好きですが、私には忘れられない思い出があります。

二年前、私が三才の時、初めて自分のお金で買ったセキセイインコがいました。4年間ヒナから育て、大人になつたキイと言うオスのインコでした。とても人間になれ、人間の言葉がわかつている様な、とても頭の良い子でした。私には子供のキイも、鳥にしたらもう大人、メスのピコと言うインコと夫婦になつて、たくさん

るんですが、その声が、仲間と思つたのか、ものすごい大ケガをして血まみれになりながらも飛んで来た水色のインコがいたので保護したんです。」
と言いました。

「本当ですか？」
と、お母さんと二人で、目を合わせておどろきました。

「多分、ちようどのこのポスターに書かれているいなくなつた日と保護した日が近いし、色もはっきり写真と同じとは言い切れませんが似ているし、もしかしたら、お母さんのインコかと思つて電話したんです。」
と言つてくれました。

今すぐ確認に行きたいと伝えると、今自宅にそのインコは、いないと言われ、すごいケガで、見るのもかわいそうな位で、私にはどうにも出来ないし、自分の家のインコと一緒にするわけにも出来ないの、実家であつたとしてもらつていると聞き、そこで、そのご実家に連絡をとつてもらい、車で40分、そのお宅に行くと、連れて来てもらったインコは、まさにピコでした。逃げたら、鳥は、絶対にまた戻るのは、不可能に近いと言われているのに、まさかまた再会出来るなんて！信じられない位、心ぞうがドキドキしたのを、今でも忘れられません。お世話をしてくれたその方は、ピコにチイちゃんと言つて、とても可愛がつて下さつていました。ひどい姿で保護された毛がほとんどなかったと言う身体も、一ヶ月の月日で、またきれいに生えそるえ、ケガの

あともなく、元の姿になっていました。そのお宅でも、はなし飼いにして飼つてもらえ、多分とても愛情を注いでもらつたのでしょう。いなくなる前のピコはおなかにたまごを作つていた時期というのもあり、かなり強ほうで、かみつさがひどいヒステリックな感じでした。でも一ヶ月後のピコは、かみつが全くななくなりました。飼つてくれた飼い主さんが、

「ピコって言う名前だったんだね。さあ自分のお家へお帰り。」

と言つて、自分の手に乗せたピコを私の手に乗せかえて、お母さんが、一ヶ月までピコの家だったカゴを持っていったので入口を開けると、自分の家がわかるかのように、すぐカゴの中に入りました。まさか、またピコと出会えるなんて！と言うきせきの再会。でも私には、ピコより大切なキイがいないことが切なくて、ピコに、帰りの車の中で

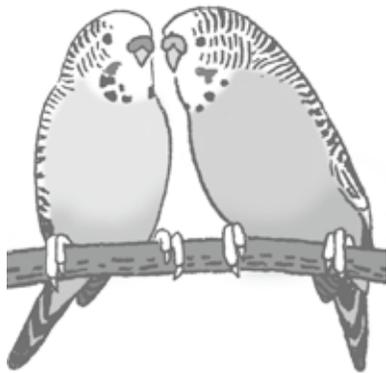
「ピコ。キイは？キイは一緒になかったの？」
と、何度も、言葉は通じないかも知れないけれど、問いかけました。でもピコは、しゃべれない。何か言われていると、首をかしげているだけでした。

自宅へ帰つて、部屋のドアを開けると、カゴに入っているピコの姿を見つけた、仲良しだったインコ達が、いっせいに、ピコのカゴに飛んで来ました。そして、ピコもカゴから出してあげると、まっ先に、キイの次に仲良くしていたインコが、ピコのクチバシをつつきながら、必死に何かを話していました。

「どこへ行ってたの？何でずっといなかったの？さみしかったよ。」

そんな会話をしているようでした。私にとって、また同じ家で生活出来るピコとの再会は、思ってもいなかった、キセキの出来事で、一生忘れることが出来ません。あの時の再会の感動は、二年経った今も忘れられません。きっとピコも、そうだったと思います。まさかまた自分が戻って来れるとは、思っていなかったでしょう。ピコにとっても、私にとっても、保護してくれた人は、命の恩人です。

でも大切なキイは、戻って来ませんでした。私なら想像出来るキイのこと。キイは、きっとピコを守るために、カラスと戦ったんだと思います。ぼくが、今戦っているうちに、君はにげなど、先にカラスのえじきになって戦ったピコの身代わりになってピコを逃がしキイは命がつかんだと思います。やさしいキイなら、絶対してははずです。考えたらせつなくて今でも涙が出てきます。でも私は、今でも思っています。



けん命土をこねていると、
「キヤー、ミミズー。」

という声があった。ぼくのパケツにはミミズが入っていなかったけど、男子はミミズを見て「うわー。」

と喜んでいたり、女子は悲鳴をあげたりしていた。

そして、芽だした苗をパケツに植えた。土に指の第一関節までの穴を五ヶ所あけて、苗を五本ずつ植えた。ぼくは、おいしいお米がいっぱいできますようにと願いをこめて植えた。

それから、毎日水をやって観察をした。植えた時は七センチぐらいだった苗が、二週間後には、二十センチまで伸びてきれいな緑色になった。その後もぐんぐん伸びて葉の数も増え、緑色がこくなっていった。葉をさわるとだんだん固くなってきて、じょうぶに育っているなど感じた。六月の終わりには、五十七センチまで伸びて、成長するのは早いと思った。

ぼくは、六月三十日から三日間山の学習に行き、帰ってきてからもあまり水やりをする時間がとれず、稲の観察をしつかりしていなかった。

七月十日、もうすぐ夏休みが始まるのでパケツ稲を家に持ち帰ろうと、お父さんとお母と一緒に学校にやって来た。しかし、そこで見たほくのパケツ稲は、ほとんどの葉が茶色になっていて、ぐったりしているように見えた。

「祐樹の稲、かれかけてるんじゃないの?」

『キイは、必ずどこかで生きているよ。』
私の心の中で命がつきないように、本当のキイの命も、どこかで、ピコを助けてくれた人みたいに、やさしい人に保護されて、今も生きている。生きていてほしいと、今でも毎日考えています。大切だった思い出も、愛情も注いで生活

入賞
おめでとう

菅公賞

初めて育てるパケツ稲

愛知県岡崎市 六ツ美北部小学校

5年

武内 祐樹

指導者 鈴木隆

「水やりしたの?」

「今からするところ。」

夏休みに入って、夕方になると毎日のようにぼくとお母さんはこんなやりとりをしている。なぜかという、ぼくは今、パケツ稲を育てていて毎日観察を続けているからだ。

パケツ稲作りは、今年の四月から始まった。四月二十一日、学校で芽出しの準備をした。とうみの容器に水と種もみを二十五つぶ入れて芽が出るのを待った。種もみはだ色で、さわる固くてざらざらしていた。ぼくは、いつ芽を出してくれるのか楽しみだった。

水につけてから六日で芽が出てきた。芽の長さは一センチぐらいで、真っすぐ伸びている芽や丸まっている芽がありおもしろいなと思っ

お母さんが心配そうに言った。ぼくの稲は、他の友達のと比べても明らかに弱々しく、元気がなかった。ぼくは、かれかけた稲を見てショックだった。このままかれてお米ができなかったらどうしようと不安になった。

それからぼく達は稲を持ち帰り、土を加えて水をやった。毎日水やり、どうか元気になってほしいと願っていた。すると、だんだん緑色の元気な葉が内側から伸びてきて、二週間後には元気な稲にもどってくれた。

七月の終わり、稲の葉に虫に食われたようなあとがたくさんあった。葉やくきに虫がいなかよく見てみたら、くきの下の方にうす茶色の体に、たてじまが数本ある気持ち悪い幼虫を見つけた。

「うわー、なんだこいつ。お母さん、ちょっと来て。」

と、ぼくはあわててお母さんをよんだ。

「何、どうした?」

とお母さんも稲を見てみると、

「何、これ。」

と、気持ち悪そうに顔をゆがめた。そして、家から急いでわりばしとふくろを持ってきて、くきをかきわけ、虫をわりばしでつまみとって退治した。小さなものは一センチぐらい、大きいものは三センチぐらいの幼虫が十ぴきぐらい出てきた。家にもどって、幼虫について調べてみると、ニカメイガの幼虫で、葉やくきを食べて

してきたことも大好きだから、忘れることはありません。二年が経った今でも、私はキイとの生活が、ついこの間まであったように感じます。そして二年間、キイの事を一日も忘れた事はありません。キイが大好きだから、これからもずっと思いません。

た。芽はほとんど白色だったけど、先の方が緑色になっているのもあった。これから、どのくらい伸びるのかわくわくしてきた。

五月二日、芽は三センチまで伸びて緑色になっていた。真っすぐに伸びていて、早くパケツに植えてあげたいと思った。

五月九日、芽は六センチに伸びて先の方が分かれていた。それに白い根が出ていて他の根とからまっていた。

ゴールデンウィーク明けに、パケツに植えるための土作りをした。パケツに土と水を入れて手をつっこむと、冷たくて気持ちよかった。上の方の土は泥になったけど、下の方は泥になっ

葉が黄色に変わってかれたり、くきの中がからっぽになって、穂ができなかつたりするそう

だ。葉が食べられていたのは、多分この害虫のしわざだと思った。そして、かれてしまったくきや葉をすべて取り除いた。

「やったー。」

と声をあげた。このまま、おいしいお米ができてほしいなと思った。でも、その後も害虫が出てきて何度も退治した。何としても害虫から穂を守るぞという気持ちでいっぱいだった。八月は、よく晴れて暑い日が続き、稲はぐんぐん成長し九十センチまで伸びた。穂は日が経つにつれてどんどん増えていき、真っすぐ立っていた穂がこうべをたれてきた。色はまだ緑色だけ

ど、しゅうかくをする前の田んぼの稲に似た形になってきた。穂のつぶを一つ取って割ってみると、白いつぶではなく、白い液体が出てきた。

八月の終わりに、穂の色が黄色く色づいてきた。しゅうかくするのが待ち遠しくなった。

ぼくは、パケツの中の少しの稲だけを育てているけど、農家さんは、広い田んぼにたくさん稲があるので大変だなと思った。

「水やり終わったよ。」

今日も元気に稲は育っている。

入賞
おめでとう

菅公賞
手紙

東京都小平市 東京創価小学校 6年

渋谷 美佳

指導者 殿崎 誠治郎

今、寄り添い続けたい友がいる。いつも明るく、面白い事をして、みんなを笑わせてくれる元気一杯のクラスメートが、最近元気が無い。

彼女は、いつも一緒にいるグループの子ではないので、席替えて2回も同じ班にならなかつたら、もしかしたら気付かなかったかもしれない。

彼女が授業に出れずに、毎日、保健室に行っている事を……。

その理由に、色々思いを巡らせてみた。友達の中で悩んでいる？

家族とケンカでもした？

まさか、サボリで？

いや、彼女の性格上、それは絶対にならない。なにか力になりたい。こんな自分でも、ほんの少しでも、応援できる事は無いだろうか？と真剣に考えてみた。

なぜなら、恩返しをしたいから。私はプールが大の苦手。六年生になって、初めての水泳授業で、ウォーミングアップの蹴伸

反応がすごく気になったけど、返事は待たない事にした。
一週間後、返事がきた。「とっても嬉しかった」「そんなふうに言ってくれる人、クラスにいなかった」との言葉に、(手紙を出して本当に良かった)と思った。

言葉で人を励ませる事の素晴らしさを知った。何気ない言葉で、簡単に人を傷つけてしまう事もあるし、たった一言でも、人を救う事もできる。もっと人に、元気や勇気の言葉を送れるように、相手を想う心と、表現する力をみがきたいと思った。

お母さんはよく私に「目の前で苦しんでいる人に、寄り添い続ける人になってほしい」と言います。

寄り添う事は誰にでもできて、寄り添い続ける事は容易な事ではない。でも私は友達を信じていた。

まだ彼女のなやみがゼロになった訳ではないけれど、小学校生活最後の年、彼女も私も、卒業式を最高の笑顔で迎えられるように。彼女に寄り添って、励まし続けていきます。

び泳ぎができなかったのは、学年で、ただ一人、私だけだった。皆がスイスイ泳ぐのを横目に、プールのすみっこであたふたしていた、そんなカッコ悪い私の様子を、どこかで見てくれたのかな？彼女は、「次は一緒にやろう」と声を掛けてくれた。そして彼女らしい、とっても面白く分かりやすく、泳ぐコツを教えてくれた。涙が出るほど嬉しかった。

彼女のアドバイスをきっかけに、ついに蹴伸び10m、クロール10m泳げるようになった。

その時の事を思い出しながら、自分に何ができるか、悩んだ。

まずは手紙を書いてみようと思いついた。でも、びんせんを前に、一言目がなかなか出てこない。人を励ますって、簡単じゃない。気持ち言葉を言葉にする事は、本当に難しいと実感。自分の文章力の無さにもガツカリする。何回も書き直してやっと仕上げた二枚の手紙。彼女のレッスンジャーになりました。少しでも、元気になってくれますようにと思いを込めて、渡す事ができた。

